



櫛田川と道標



両機殿社

両機殿神社は皇大神宮神宮と別宮の荒祭宮で5月と10月に行われる神御衣祭(カンミサイ)に天照大神に奉る和妙(ニギハ、絹)、荒妙(アラハ、麻)の御衣を奉織する機殿をお守りする神社。創立は定かでないが、倭姫が天照大神を奉って飯高の高宮におられた時に長田郷に機殿を建て大神を奉ったのが始まりという。天智天皇7年(667)に両機殿が焼失したため宣旨により承暦3年(1079)、両機殿を隔てて現在地に移す。



かんほとり 神服織機殿神社

通称下機殿(シモハテン)。正面に和妙の絹布を奉織する八尋殿(神服織機殿)。左側に神服部氏の祖神天御杵命と人面(男子の織子)の祖神天八千々姫命が、御前神として八末社が祀ってある。



かんおみ 神麻績機殿神社

通称上機殿(カミハテン)。正面は荒妙の麻布を奉織する機殿の八尋殿(神麻績機殿)。左側に神麻績氏の祖神天八坂彦命との伝え。また境内には御前神として八末社が祀られている。



竹神社

当地の氏族、竹氏の祖神を祀った社。祭神今は長白羽神、古くは大彦命(竹田臣の祖とされる)平安時代この辺りが斎宮の中心といわれる。当社はもと斎宮歴史博物館辺りにあったが明治44年ここに合祀移転してきた。

祓川

齊王群行際、ここでお祓いをして斎宮に入ったことから名付けられる。

斎宮歴史博物館 齊王の森 大来皇女の歌碑

斎王宮跡

竹神社

斎宮駅

牛葉

中町

斎王制度は天武天皇の大来皇女(天武2年(674))が最初で醍醐天皇の皇女祥子内親王(建武元年(1334))が最後この間660年間続いた。南北朝の争乱で廃止となる。



朝田町 朝田寺

”朝田の地藏さん”で親しまれる。弘法大師開祖。最近ボタンで知られる。山門、桃山時代の遺風、荘重華麗。地域の人々が亡くなると故人の愛用した衣類を初盆に納める風習がある。(お堂内に天井から衣類が吊るしてある)



魚見橋



斎王弁当

[弥次・喜多]

櫛田川手前の茶店で”旅人はいづれにころうつるやとおもんおかんが売れる焼きもち”

櫛田駅

南櫛田

道標

茶屋多かた

豊原町

渡しのあった辺り

石地藏

大乘寺

早馬瀬町

櫛田橋

大字名号碑

稲木町

道標

外宮3里

竹川

斎宮

斎王、斎宮

天照大神は”天のしたに主たる神”と言われ天皇はその御心を承けて統治するものとされていたので天皇は大神に直接奉仕すべきであるが京都で政治が行われたので身代りとして斎王を伊勢に遣わし大神の伝宣者とした。斎王は6,12月の月次祭、9月の神嘗祭に内宮、外宮に奉仕された。都に帰れるのは原則として天皇の譲位、崩御の時であった。斎王には未婚の内親王または女王中から選ばれ、3年の精進斎斎後天皇より別れの”御櫛”を賜り近江国府、甲賀、垂水、鈴鹿、一志の頓宮をへて伊勢の斎宮に入られた。5泊6日の旅(群行)斎宮には斎王の宮殿、役所、寮などが置かれた構成は内院、中院、外院からなり、内院は斎王の宮殿、中院は寮の頭、官僚の居所、外院は舎人、倉部、炊部等があった。現在東西2km、南北700m国史跡。



山添町

こうやま 神山神社

法田町

伊勢参宮街道：上川町・櫛田橋・斎宮—⑦